

## 「共に生きる社会」実現へのスポーツを通じた取組について

### 1 現状

- 県では、「岩手県障がい者プラン」に基づき、障がい者の社会参加が促進されるよう、障がい者スポーツ教室やスポーツ大会の開催、スポーツ指導員の養成等、障がい者の多様なニーズを踏まえたスポーツ、レクリエーション事業の充実に取り組んできたところ。
- 特に平成 28 年度は全国障害者スポーツ大会（希望郷いわて大会）の本県開催を受け、個々の選手やチームの競技力向上を図ってきた。
- 希望郷いわて大会では、本県選手団は過去最高となる合計139個のメダルを獲得し、選手の発掘と強化に取り組んできたことの成果が表れている。
- 希望郷いわて大会では、選手たちが自らの可能性に挑戦し続ける姿に感動と共感が生まれ、全国に向けて、共生社会の姿を発信し、障がいのある人もない人も互いに尊重し、共に支え合う社会の実現に向けて大きく貢献することができたものと考えている。

#### 【資料 1】平成 28 年度の障がい者スポーツ関連事業の概要

事業名	概要
スポーツ教室開催事業	・障がい者スポーツの教室の開催 〔ボッチャ、グランドゴルフ、登山、トレッキング、キャンプ、ゲートボール、卓球バレー、スキー、ボウリング、サウンドテーブルテニス、ウォーキング〕
県障がい者スポーツ大会開催事業	・県障がい者スポーツ大会の開催
スポーツ・レクリエーション開催等事業	・フライングディスク大会の開催
障がい者スポーツ指導員養成事業	・初級障がい者スポーツ指導員の養成研修 ・中級障がい者スポーツ指導員の養成研修 ・フォローアップ研修
全国障害者スポーツ大会選手育成強化事業	・個人・団体各競技練習の開催 ・団体競技の遠征 ・ブロック予選への参加支援 ・選手育成強化推進に係る連携体制の構築

#### 【資料 2】全国障害者スポーツ大会（希望郷いわて大会）の開催結果

##### (1) 個人競技別メダル獲得数

陸上競技			水泳			アーチェリー			卓球			フライングディスク			ボウリング			合計		
金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅
26	19	20	17	5	4	2	1	1	4	6	6	5	8	9	1	3	1	55	42	41

##### (2) 団体競技(主な成績)

###### (ア) グランドソフトボール

###### 3位(銅メダル)

※ 団体競技でのメダル獲得は、平成 17 年の第 5 回大会でフットベースが優勝して以来、11 年ぶり。

- (イ) 身体障害者(聴覚)バレーボール(女子) 4 位
- (ウ) 知的障がい者バレーボール(男子) 5 位
- (エ) 精神障がい者バレーボール 6 位

## 2 今後の方向性

- 県は、いわて県民計画の政策の柱に「共に生きるいわて」の実現を掲げるとともに、復興基本計画に社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の考え方を盛り込み、共生社会の実現に向け取り組んでいるところ。

障がいのある人となない人がお互いを尊重し、共に支えあう社会を実現していくうえで、障がいへの理解を促進することが不可欠であり、スポーツは重要なツールの1つと考えている。
- 一関市の提案は、共生社会の実現に向けた取組として有意義なものであり、各市町村においても同様の取組が広まることを期待したい。
- 県では、平成28年度中に「(仮称) 岩手県文化・スポーツ振興戦略」を策定するとともに、平成29年度には新たに「文化スポーツ部」を設置し、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、県民一人ひとりがより身近にスポーツを楽しむことができる環境を整備するとともに、スポーツによる障がい者の更なる社会参加を促進するため、障がい者スポーツを一層推進していくこととしている。
- 年齢や身体能力、障がいの有無に関わらず、県民一人ひとりがスポーツに取り組む新しい地域社会の創出へ向け、岩手発の新しい「超人スポーツ」を考案し、県内や国内外へ広く発信する。

### 【資料3】超人スポーツ

最新の研究分野である「人間拡張工学」に基づき、人間の能力を、テクノロジー（科学技術）を用いて拡張し競技することで、年齢や身体能力、障がいの有無等に関わらず、誰もが楽しむことができる可能性を持つ新しいスポーツ。

（平成28年度の取組）

#### 1 「岩手発・超人スポーツプロジェクト」

キックオフミーティング（4/24）



ワークショップ（第1回（5/28）、第2回（6/25～26）、第3回（8/20））

⇒プロジェクトから4種の競技を考案

#### 2 いわて若者文化祭 2016（9/24～25）

超人スポーツ協会認定競技2種と「岩手発・超人スポーツプロジェクト」考案競技4種の競技説明及びデモンストラレーションプレイを実施

### 【「超人スポーツ」認定競技の例】

	
<b>Bubble Jumper（バブルジャンパー）</b>	<b>Carryotto®（キャリオット）</b>
「ジャンピングスティルツ」というジャンプ力を増す器具を装着して脚部を強化し、「バブルボール」という衝撃吸収体を身にまとい、1対1でぶつかり合って相手を押し倒す競技。	現代版の古代ローマ戦車競走。かつての機動力であった「馬」を「モーターデバイス」に置き換え、疾走するデバイスの速度や向きを手綱でコントロールしながら競走・競技する人機一体のスポーツ。

【資料4】岩手県障がい者プラン（平成23年2月・平成26年2月改定）【抜粋】

2 社会参加活動の推進

① 活動・交流の場や機会の確保

- 障がい者の社会参加が促進されるよう岩手県障がい者社会参加推進センターを中核とした、障がい者の多様なニーズを踏まえたスポーツ、レクリエーション、文化活動等の事業の充実に取組み社会参加の機会の拡大を進めます。
- 平成28年度に本県で開催される全国障がい者スポーツ大会（「希望郷いわて大会」）に向けて、本県から参加する選手の適性の把握、掘り起しや、未設置競技チームの設置に向けた取組への支援を行うとともに、個々の選手やチームとしての競技力向上を図ります。
- 希望郷いわて大会の開催に向けて、競技役員やボランティアの養成を行います。
- 障がい者スポーツの技術指導や競技レベルの向上を図るため、障がい者スポーツ指導員の養成に努めるほか、障がい者スポーツ団体への支援を行います。

【資料5】（仮称）岩手県文化・スポーツ振興戦略【抜粋】

戦略1 国体・大会のレガシーの継承と従来の枠を超えた文化・スポーツへの取組

【重点施策3】ポップカルチャーなど従来の文化の枠を超えた取組の推進

- 年齢や身体能力、障がいの有無等に関わらず、県民一人ひとりがスポーツに取り組む新しい地域社会の創出に向け、若者を中心として自由な発想による岩手発の新しい「超人スポーツ(\*)」を考案し、県内や国内外へ広く発信します。

(\*) 最新の研究分野である「人間拡張工学」に基づき、スポーツと文化、科学技術の融合により人間の能力を拡張し競技する新しいスポーツ

戦略3 県民が元気になるスポーツの振興

本県では、平成28年に希望郷いわて国体・希望郷いわて大会が開催され、県内の多くの市町村で競技が行われました。また、今後、平成31年には、ラグビーワールドカップ2019™が釜石市で開催され、県民のスポーツに対する機運がこれまでになく高まることが期待されています。

これらのイベントを一過性に終わらせることなく、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、県民一人ひとりがより身近にスポーツを楽しむことができる環境を整備するとともに、競技力の更なる向上や障がい者を含めたトップアスリートの育成などにより、スポーツの魅力を実感し県民の心と体が元気になるスポーツ振興を推進していくほか、プロスポーツチーム等との連携やスポーツツーリズムの振興による地域活性化も推進していきます。

また、スポーツによる障がい者の更なる社会参加を促進するため、障がい者スポーツを一層推進していきます。

【重点施策1】一人ひとりが楽しむことができるスポーツ社会の推進

- 市町村との連携や相互のネットワーク化等により総合型地域スポーツクラブの活動の活性化を図り、県民が障がいの有無・年齢・体力・競技レベルに応じて、地域で気軽にスポーツに取り組む環境を構築します。

【重点施策3】スポーツ活動を支える環境の整備

- 障がい者スポーツ推進組織の設立や障がい者スポーツ指導員・スポーツボランティアの養成、講演会・スポーツ教室・競技大会等の開催に向けた支援を行うなど、障がい者スポーツの一層の推進と理解促進を図ります。
- スポーツを通じた県民の健康づくりと障がい者を含めた選手や指導者の育成及び県内スポーツの競技力の向上を効果的・効率的に図ることができるよう、スポーツ医・科学機能の拠点の設置を検討するなどスポーツの環境づくりを進めます。